

サタデー コラム

人口減少、少子高齢化

が加速度的に進むわが国では、これから社会を担う若者、特に高校生にとって商業教育は必須です。今や右肩上がりの経済成長の時代は終焉となり、縮小社会で生き抜くためには、経済に明るくその基盤となる商業知

識を身に付けるべきです。商業教育部会長を拝命し、高校商業教育振興を目的に活動しています。15〜18歳の高校時代は、人生で最も吸収力が旺盛で学力も伸びるとい

中村源次郎・秋田屋本店社長

全高校で商業教育を

商業高校と朝日大とが連携を図り、高校と大学の7年以内で難関の公認会計士試験への合格を実現しており、合格者数は年を追うごとに増えています。「鉄は熱いうちに打て」の格言通り、高校時

代の商業教育は効果もより大きく、想像を上回る結果を出してきました。

今や「ジャパナッシン

「ジャパナッシン」と称され、その復興は教育システムの再構築にあり、その鍵の一つは普通高校はじめ全ての高校に商業教育を導入して、実践力を身に付けた経済が理解できる若者を育てることだと思

われま。その時期こそ簿記、会計、税務、IT技術等を習得するのに適した年齢で、タイミ

代の商業教育は効果もより大きく、想像を上回る結果を出してきました。これからは「貯蓄から投資への時代」といわれ、経済知識がより求めら



なかむら・げんじろう
1951年、岐阜市生まれ。博士(医学)。県

経済同友会筆頭代表幹事。岐阜南法人会長。県製菓協会会長。みづほの家理事長。県養蜂組合連合会長。県研究開発財団評議員。岐阜放送番組審議会委員。県フェニックス協会会長。県立岐阜北高校同窓会長。